

一人ひとりの患者の思いに寄り添いながら、 リラクゼーションを支援

響きの杜クリニック 札幌市中央区

響きの杜クリニック(西谷雅史院長・無床)は、自然治癒力の發揮に重点をおいた西洋医学と代替医療を合わせた統合医療を実践しており、看護師は癒しやリラクゼーションの様々なケア支援をしながら、一人ひとりの患者の思いに寄り添うアプローチを行っています。

産婦人科を標榜する同クリニックは、病気をこころからだ全体からとらえて治療し、病気にならないからだと作るための「響きあう医療」が理念です。

漢方薬やバッチフラワー、ホメオパシー(同種療法)をはじめ、気功や西野流呼吸法の実践など、札幌厚生病院

コーヒーなども置き、サロンのようなゆっくり落ち着ける待合



患者アンケートの実施や意見箱の設置。待合室には患者様が自由に書き込

める「なんでもノート」が置いてあり、不妊に悩む方々が励まし合える発信の場を提供。個人情報保護のためにPHSによる直接呼び出しなど、プライバシーを配慮した細やかなアイデアが活かされています。

心のケアの部分では、臨床心理士によるグループサポート「すずらんの会」を月1回開催。また、看護師や臨床心理士による個別カウンセリングも行っていきます。「この中で語られた患者様の思いをナースミーティングで事例紹介しながら、スタッフみんなが共有できるように対応を学んでいます」(太田看護主任)。

昨年からは最新情報を提供する

Kaniva Newsを発行。今春からは医師3人体制に増員され、これに伴いカウンセリングルームや待合室なども充実整備しました。本年度の看護部は、医療安全強化を目標に掲げ取り組んでいます。

浅野看護師長は「日本の生殖医療は小規模な専門クリニックがリードしています。それだけにナースの専門性が要求されます。ISOやJISARTに取り組むことによって、部署ごとの目標や問題点がよく分かるようになり、お互いの連携がしやすくなった」と話し、チーム連携による、心のケアを含めた満足度の高い看護提供に努めています。

での豊富な執刀経験も生かして新しい治療法に取り組んでいます。

建物は、木を活かしガラス張りの温かみのある院内、磁場調整と敷炭によるアース工法の床、珪藻土の壁、多目的ホールなどを設け、安らぎ空間に

しています。また臨床心理士もいて、心地よくカウンセリングを受けられるよ

う配慮しています。

看護師はいずれも病院勤務経験者で、「もっとゆっくり患者さん一人ひとりと関わることでできる看護がしたい」と入職。常広看護師は「ここでは症状だけを見るのではなく、身体全体を見て起こっている根本の原因解消のお手伝いができる」とやりがいがある

と強調します。

「西洋医学のみの治療に限界を感じ、他にももっと私たちにできることがあ

るのではないかと臨床現場ですと



(左から) 浜名看護師、常広看護師、百田看護師

思っていました」と語る浜名看護師は、「統合医療によって自分の求める看護を見つけることができました」と話します。

産婦人科の一般治療をはじめ、月経等の諸症状や自律神経失調症、更年期症状などへの漢方治療、プラセンタ治療、バッチフラワーなどを実践。西野



ひびきホールで行っている西野流呼吸法

流呼吸法は独特の足音呼吸で気を巡らせて心と身体を心地よく緩めることによって、元気が出て気持ち前向きに。肩や背中のがりが取れ元気になる、疲れづらくなるとの声や不妊治療の人に朗報ももたらしたと言います。

また「メデイカルアロマテラピー」は精油の有効成分を体内に取り込むことで病気の初期症状や体質改善に役立つ代替医療。薬ではなくもっと身体に優しく自然な方法で症状を癒したいという想いで看護師が中心となって実践しています。

一人ひとりの患者さんの言葉に耳を傾け、その人の症状に合ったものを選び、それぞれの精油の特徴や効果的な使用方法等をアドバイスしています。同院では冷えやむくみ、便秘、生理痛をはじめとした女性特有の症状の改善に努めています。

「患者さんに良いことは、どんどんチャレンジしましょう」と院長が言って

くれますので、安心して看護が実践できる」（浜名看護師）

「妊婦さんや患者さんにはより心と身体を癒してもらいたいので、もっと代替療法が普及してほしい」（常広看護師）

「患者さんの緊張や不安を少しでも和らげるため、ベッド上や処置に入る患者さんの手を握ったり、触れるようにして、安心できるようにしています」（百田看護師）。

日替わりで様々な香りが楽しめるハーブティのサービス、アロマオイルを使った消臭スプレー、ポリマーの入っていない使い心地のよいナプキンの設置など、来るだけで癒されるクリニックにしたいとの看護師の思いから細やかな心配りがあちこちにみられます。

開院3年目を迎え、看護職と事務スタッフが協力して「響きの杜通信」を創刊。スタッフと患者、家族、地域の人たちの心と身体がもっともっと健康になるように、ホットな情報発信を行っています。



「響きの杜通信」第1号

専門性の高いマルチな看護を促進し、患者への安心感、信頼関係を強める

札幌心臓血管クリニック 札幌市東区

札幌心臓血管クリニック（藤田勉理事長・腰山博昭院長、19床）は、24時間救急救命体制の循環器疾患高度治療専門施設として08年4月オープンし、道内トップクラスの心臓カテーテル治療実績となっています。看護部は外来、病棟、カテーテル検査室のローテートによって、マルチな専門看護ができる体制を整えており、これが患者の安心感や信頼関係の強化などにつながっています。

同クリニックは高度な専門治療技術

に加え、フラットパネルレントゲン装

置を備えたカテーテル検査室、64列マルチスライスCT等の高レベルの治療・検査設備を装備。他の医療機関へも医師が積極的に出向いて診療を行っており、心臓カテーテル治療は開設1年で1000例を超えるまでになって

います。

現在、看護師は29人おり、外来、病棟、カテーテル検査室（カテ室）に配置されています。開設時は循環器経験のない看護師も多かったため、専門知識・技術の習得、カテーテル検査のス